

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

鳥取県

学校名

米子市立福生中学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等

中学1年生 学級活動

目標・人権教育のねらい

- ・世界人権宣言や子どもの権利条約に触れ、すべての人の人権が守られることの大切さについて理解を深める。
- ・法やルールの意義、互いの人権を尊重し合うことの大切さについて理解を深める。

実施した内容

- ・「権利カード（子どもの権利条約版）」（鳥取県教育委員会制作）を活用し、自分たちの生活と持っている権利についての理解を深めた。（1時間）
- ・日常の具体的な場面を通して、どのような権利が守られているか、または奪われているかについて法やルールの意義も踏まえて考えた。また、「みんなに住みよい」を実現するために何ができるかについて話し合った。（1時間）

工夫した点

- ・学習用端末内のクラウド型授業支援アプリを活用し、全員が自分の考えや思いを表現した。さらに、クラス内で共有し意見交換を行った。
- ・ダイヤモンドグラフ等の思考ツールを活用し、自分の考えを整理し、他者と比較したり自分の考えを深めたりした。

他教科との
関連

- ・世界人権宣言や子どもの権利条約は、その後の人権学習（1年「障がいのある人の人権問題」、2年「性の多様性」、3年「多文化共生」）における普遍的な視点となっている。

事業成果

知識的側面：道徳科のいじめを取り扱った教材「魚の涙」（光村図書）や障がいのある人に対する人権問題を取り扱った学習では、「人権尊重」「人権侵害」の視点を踏まえた「ふりかえり」を行う生徒が多く見られた。また、人権学習において、学校教育目標にある「みんなに住みよい」と結びつけ、その実現には互いの人権を尊重することが必要であるという記述が見られるようになった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

鳥取県

学校名

米子市立福生中学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

中学1年生 学級活動

目標・人権教育のねらい

- ・障がいのある人を取り巻く問題に目を向け、偏ったものの見方や考え方をしないことの大切さを理解し、共生社会の一員として差別や偏見のない社会を築こうとする態度を養う。
- ・障がいの有無に関わらず、互いの特性や思考を認め合いながら、「みんなに住みよい社会」にするために大切なことについて考えを深める。

実施した内容

- ・鳥取県手話言語条例学習教材「AKASHI～証～」を活用し、制定の歴史や背景の理解を行った。（1時間）
- ・手話普及支援員による講演・手話体験の実施。（2時間）
- ・「障がいはグラデーションであり、一面的なものではない」ことについて理解を深めた。（1時間）
- ・障がいのある人を取り巻く問題を通して、差別や偏見のない社会について話し合った。（1時間）
- ・学習の振り返りを通して、「みんなに住みよい社会」にするために自分にできることを考えた。（1時間）

工夫した点

- ・学習用端末内のクラウド型授業支援アプリを活用し、全員が自分の考えや思いを表現した。さらに、クラス内で共有し意見交換を行った。

他教科との
関連

- ・道徳科において、「公平にするとはどういうことか」について学んだ。

事業成果

- ・価値・態度的側面：相手の個性を認めながら接しようとする姿勢が見られるようになった。また、事後のアンケートにおいて、ボランティアや支援センターの活動に積極的に参加したいと答える生徒が多く見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

鳥取県

学校名

米子市立福生中学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

中学3年生 社会科

目標・人権教育のねらい

- ・差別意識の変遷と、近世身分制度の構造について理解するとともに、部落差別の不合理性について気づく。

実施した内容

- ・中世のケガレ意識や江戸時代の身分制度から、差別意識の起こりについて学習し、部落差別の歴史や不合理性について理解を深めた。

工夫した点

- ・既習事項である中世のケガレ意識について再確認することで、時代変化に伴い差別意識へと変化したことについて理解させるとともに、部落差別の不合理性について考えさせる。

他教科との
関連

- ・学級活動において、インターネット上での同和問題について学習した。インターネット上での書き込みを通して、自らの差別性や自分との関係性を見つめ直した。

事業成果

知識的側面：振り返りの中で、「人権侵害等の歴史や現状に関する正しい知識を得ることができた」というような記述が見られるようになった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

鳥取県

学校名

米子市立福生中学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

中学3年生 学級活動

目標・人権教育のねらい

- ・自らの差別性や自分との関係性を見つめ、自己の生活や学習への適応及び自己の成長に関する課題を見だし、多様な意見をもとに自ら意思決定をすることができる。
- ・「あらゆる差別をしない私であるため」「あらゆる差別の手助けをしない私であるため」に大切なことについて考えを深め、他者への尊重と思いやりを深めてよりよい人間関係を形成しようとする。

実施した内容

- ・ケガレ意識に関する歴史的事象から、部落差別に関する正しい知識を学んだ。(1時間)
- ・インターネット上の書き込みから、自分に何ができるか考えを深めた。(1時間)

工夫した点

- ・県人権意識調査からインターネット上で差別的な表現が増えていることを確認した。
- ・インターネットに投稿された質問と2つの回答の事例を提示し、回答の問題点についてマイクロアグレッションの視点をもって考えさせた。
- ・コロナ感染症対策で机を向かい合わせての班活動ができなかったため、meet通話機能を活用して意見の共有を図った。

他教科との
関連

- ・道徳科において、情報モラルの教材を扱って学習した。
- ・社会科において、歴史的事象から部落差別について学んだ。

事業成果

価値・態度的側面：人権の観点から自分自身の行動に責任を持って他者と関わろうとする生徒の姿が見られるようになった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

鳥取県

学校名

米子市立福生中学校

人権課題

性的指向、性自認

対象学年・
取り扱った教科等

中学2年生 学級活動

目標・人権教育のねらい

- ・多様な性の学習を通して、自分も他者もかけがえのない存在であることを理解し、不合理な人権侵害や社会にある障壁に対し、仲間とともによりよい方法で解決しようとする態度を養う。
- ・誰もが多様な性の一員であることを認識し、「みんなに住みよい社会」にするために大切なことについて考えを深める。

実施した内容

- ・多様な価値観を尊重し合うことが「みんなに住みよい社会」の実現につながることを考えた。（1時間）
- ・多様な性のあり方について正しい知識について理解を深めた。（1時間）
- ・性的マイノリティーの方の講演を聴き、自分自身の生活について考えた。（1時間）
- ・多様な性のあり方の学習を通して、差別や偏見のない社会について話し合い、「みんなに住みよい社会」にするために自分にできることは何かを考えた。（1時間）

工夫した点

- ・悩みなど生徒自身が自己開示できるよう、講演会後に講師との個別の交流時間を設定した。
- ・自他の考えの共通点や自分にはなかった他者の視点など、自分の考えを書き出した付箋を並べ替えることで、効果的な話し合いを行えるよう取り組んだ。

他教科との
関連

- ・道徳科において「差別や偏見をなくすには」について学んだ。
- ・公正・公平の視点をもって、道徳的心情を育む側面からアプローチした。

事業成果

- ・価値・態度的側面：自らも多様な性の一員としての視点をもって自分の生き方を考え、これからも多様な他者との出会いを通して、自他の理解を深めていきたいと考える生徒の姿がみられるようになった。
- ・価値・態度的側面：多様な性を尊重できる学校生活の工夫について、生徒から提案する場面が見られるようになった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

鳥取県

学校名

米子市立福生中学校

人権課題

多文化共生社会

対象学年・
取り扱った教科等

中学3年生 学級活動

目標・人権教育のねらい

- ・自分たちと異なる社会や文化、ものの考え方があり、それらを認め合うことの大切さに対する理解を深める。
- ・他者の意見や考えを尊重しながら、仲間を支え、仲間と協力してより良い生活をしていこうとする態度を養う。

実施した内容

- ・「地域づくり」の観点から、外国の方が困っているであろうことに言及し、グループで異なる文化や価値観について話し合う活動を行った。（1時間）
- ・教材「ひょうたん島」を活用したロールプレイングを行い、多文化共生の課題点や異なる価値観を持つ他者と合意形成を図ることの難しさについて理解を深めた。（1時間）
- ・アンコンシャス・バイアスの視点から、「みんなに住みよい多文化共生社会」を築き上げる上で大切なことについて考え、まとめた。（1時間）

工夫した点

- ・学習用端末を活用し、全員が自分の考えや思いを表現、共有し、意見交換を行った。
- ・生徒にとってより身近な人権課題として捉えさせるために、身近な外国の方（ALT）にインタビューした内容を具体的な事例として扱った。

他教科との
関連

- ・社会科において、文化の多様性について学習した。グローバル化の進む現代社会において、文化の多様性を認め合いながら多文化共生社会を築くことの大切さについて理解を深めた。

事業成果

態度的側面：学校行事の中で、他者と積極的に関わりを持とうとしたり、周りの意見を素直に受け止めようとしたりする姿勢が見られるようになった。